

## 背景・目的

人口減少  
少子高齢化地域の担い手不足  
集落の活力低下大学生  
事業

集落の活性化

+  
関係人口の創出

◇平成21年度から実施し、これまで103集落・103グループが参加  
◇主な参加大学: 福島大、東北大、獨協大、宇都宮大、東洋大、宮城教育大、宮城大 (R8.1月現在)

## 集落活性化の取組

- ◎大学生の持つ柔軟な視点や感性・行動力を活かした集落活性化
- ◎県内外の若者と集落の交流
- ◎集落の主体的な活動を支援



大学生  
事業  
以外の  
様々な  
関わり

## 大学生の力を活用した集落復興支援事業

- ・2年目: 活性化策に基づいた実証活動
- ・1年目: 集落の実態調査・活性化策提案

※ サポート事業: 地域創生総合支援事業(過疎・中山間地域活性化枠)

集落自主活動に係る  
伴走支援事業

- ・4年目:  
集落が実施する  
サポート事業※支援
- ・3年目:  
集落の主体的な取組への  
伴走支援

<共有・交流>  
地域づくり交流会・  
誇れる集落発信事業

- ・活動報告会  
⇒ 気付きや  
学びによる  
活動の充実
- ・交流会  
⇒ 活動の広がり、  
地域に対する  
思いの醸成

## 集落活性化の事例

## 農家民宿でまちおこし

二本松市木幡地区水舟集落  
×  
宇都宮大学 H25~26,H30~R1



- 大学生が農家民宿ガイドラインを作成し、農家民宿体験を実施。
- 木幡地区では学生の提案を受け4軒の農家民宿が開業。

## 竹の活用 SDGs

会津若松市大戸地区  
×  
会津大学短期大学部 R1~



- 伐採した竹を活用し、竹灯籠や生活雑貨の製作、竹酢液を使った野菜作りを実践。
- 収穫した野菜は、地元の高校生や企業と連携して販売。

## あんぽ柿 復っ活

伊達市梁川町五十沢地区  
×  
東洋大学 H27~30



- 風評による売上減少、検査に伴うコスト増等により苦戦していたあんぽ柿。
- 市場ニーズを捉えた少量販売、学生考案の包装デザイン、「発祥の地」の売り込みなど高付加価値の商品化に成功。

## 交流活動継続宣言

只見町布沢地区  
×  
宇都宮大学 H22~



- 学生とOBが任意団体「D-friends」を結成し、区と「交流活動継続宣言」を締結。年間延べ約200人が地域を訪問し活動・交流を継続。
- 本事業のOBが地域おこし協力隊を経て「森林の分校 ふざわ」の支配人に就任。

## 関係人口・地域の担い手へ

## 地域おこし協力隊

西会津町中町集落  
×  
福島大学

- Aさんは西会津町民の人柄に惹かれ、令和4年4月より西会津町の地域おこし協力隊に着任。
- 集落支援を担当し、西会津町と他の地域をつなぐ架け橋として活躍中。

## 地域おこし協力隊 → 起業

南会津町耻風地区  
×  
獨協大学

- Bさんは大学生事業をきっかけに、南会津町の地域おこし協力隊として3年間活動。
- 任期終了後も、南会津町に定住し直売所の運営、地元商品の県外への販売、製作したキッチンカーの営業に挑戦中。

地域  
資源

交流